

保健所における学校欠席者情報収集システムの活用について

～日々の感染症対策に活かす～

奈良県郡山保健所 健康増進課感染症係 河内 佑介

1. はじめに

本県では平成24年1月16日より学校欠席者情報収集システム（以下、「システム」という。）の運用を開始致しました。保健所では、アラートメールなどを参考に入力されたデータを随時確認し、欠席者が増加している施設への状況確認や感染症の拡大防止対策に役立っています。また、学校等からの相談や、必要時は現

地へ赴いて疫学調査などを行っています。インフルエンザの発生が続く冬場からの導入となりましたが、大きな混乱もなく導入できています。

今回、システムを導入した事で迅速に対応できた事例と、保健所でのシステム活用の実際についてご紹介させていただきます。

2. 事例紹介

Case1 「欠席者の異常な増加事例について」

システムに参加している施設の担当者は、メールアドレスを登録すると、欠席者の増加などがあればアラートメールが届くようになっています。インフルエンザの流行する時期では、急に欠席者が増加することはしばしば見られましたが、A施設において、一クラスだけ異常に欠席者が増加した事例がありました。施設担当者へ確認したところ、入力ミスで「2」を「20」と入力してしまったという事でした。同様の入力ミスは、システム導入当初は時折見られました。また、自己都合での欠席をシステムに反映されたケースもあり、マニュアルに沿った入力をしていただくようお願いした事もありました。

システムを有効に活用していくためにも、市町村教育委員会や保健所等で入力されたデータの精度管理を行う事も重要な業務であると考えます。

Case2 「感染性胃腸炎の発生事例について」

B施設において感染性胃腸炎による出席停止の児童が同日に4名発生し、同じクラスにおいて下痢・嘔吐等の症状で欠席している児童が他に4名いる状況をシステムより探知しました。電話にて施設担当者へ確認したところ、3名のノロウイルス感染者と1名のロタウイルス感染者がいる事がわかり、感染拡大防止に向けた対策について施設担当者へ相談し、対応していただきました。具体的には、臨時的保健だよりの発行等、施設で胃腸炎が流行していることを啓発したほか、手

洗いの更なる励行などを実施していただきました。システムを活用した早期探知と施設の迅速で適切な対処により、感染症が蔓延する事なく終息しました。

一方、本システムは、単日の出欠状況は把握できますが、一定の期間内の累積欠席者数の把握が難しいため軽微な集団感染を捉える事が難しいと感じています。

Case3 「麻疹の発生事例について」

風疹、麻疹、結核および腸管出血性大腸菌感染症が登録されると、予め登録したアドレスにアラートメールが届くようになっています。当保健所でも麻疹の登録を探知したケースがありました。麻疹は、感染症法において全数報告となっている疾患であり、学校保健安全法においても第2種感染症に指定されています。今回の事例では、保健所に麻疹の発生届けが提出されておらず、システムでの報告が第一報となりました。疫学調査のため、実際に施設に対し麻疹の生徒の健康状態を確認したところ、診断書は提出されていないということでした。念のため、受診した医療機関についての情報提供をいただき、主治医へ状況を確認したところ、診断は麻疹ではない事が判明しました。今回は保護者からの不正確な情報を入力した事がわかり安心しましたが、麻疹は感染力が非常に強く、集団感染を予防するためには早期探知が重要です。

この事例から、正確な欠席理由の把握の必要性と、リアルタイムに情報の共有ができるという本システムの利点を強く感じました。

3. システムに関するアンケート調査について

保健所では、システム導入後の各施設の現状と課題の共有を図り、効果的な運用に役立てる事を目的として、システム参加施設を対象にアンケート調査を実施

しました。

その結果については、次ページの表1、表2を参照下さい。

保護者への情報提供
<ul style="list-style-type: none"> 家庭からの欠席連絡がより詳しく、早くされるようになってきた。 学校担当者は、欠席理由の確認や児童の健康状態について家庭と密に連絡を取り合うようになった。 保護者にも伝えやすい各クラス担任にも手洗いうがいの励行で予防により一層力を入れるようになった。 今までは感覚で感染症の流行状況を捉えていたが、システムを導入したことで実数の裏付けがあるため、自校職員、生徒、保護者への情報提供を積極的に伝えるようになった。
感染症の予防意識・行動
<ul style="list-style-type: none"> 地域の流行状況から、自校の流行の予測ができるようになった。 流行状況が分かるので、マスクの着用等の具体的な予防行動が促進した。 学級閉鎖の措置を素早くしたことで、感染の広がりを防ぐことができた。 地域の状況がすぐに把握できるので、迅速に対策を考え、職員や保護者に伝えられるようになった。 地域での感染症の流行状況がリアルタイムでわかり、情報収集が早く正確になった。
グラフの活用、職員への情報提供
<ul style="list-style-type: none"> 職員の間で、健康に関する話題が活発になってきている。 全クラスの欠席者の状況が把握出来、自校の流行状況がわかるという点では、早期に対策を講じることができた。 保護者にも事前にシステム導入について知らせておいたので、学校は欠席者の情報をより詳しく把握することができるようになったと思う。

表1 システムを活用して役立ったこと

入力方法についての課題
<ul style="list-style-type: none"> 病院で診察を受けた結果の報告が夕方以降になる時などは、システムの入力が遅れる。 入力が翌日になると、前日に遡って入力・報告となるので当日分と混乱することがある。 入力に係わる集計や、入力した内容の点検に時間が必要。 医師の診断結果の連絡が、午後や夕方になると前日等に戻って変更・点検するのが大変。
システムの入力規則、運営、効果的な活用に対する課題など
<ul style="list-style-type: none"> 生徒が全治証明書を学校に提出してからの月報の期間を変更するのが大変。 システムでは欠席者が誰かを特定できないので、一度に多くの子どもが発症した時は、別に欠席者の一覧表を作ってあり、事務作業が二度手間になる。 インフルエンザの入力をするとう出席停止の期間が4日間と自動で入るが、生徒の登校日は様々なので、どうしても訂正しなければならない。
自施設内での取り扱いについての課題
<ul style="list-style-type: none"> 「出席停止」の入力について、個人名を入力できないので、入力する時に混乱する。 システムの入力は、冬のインフルエンザ流行の時期だけにしてほしい。 特に出席停止が多い時期は保健室も忙しいため時間的にも厳しい。 毎日なので負担が大きい。システム導入の時期を考えてほしい。

表2 システム運用に関して困っていることや課題

4. システムの効果的な活用に向けた研修会の開催

保健所では、アンケート調査の結果を受け、管内の校医、園医、保育園・所、幼稚園、小・中・高等学校、特別支援学校、市町村主管課・市町村教育委員会、県庁の各担当課、各保健所を対象とし、国立感染症研究所より安井良則先生を講師としてお招きし、研修会を開催しました。研修会では、早期探知の重要性について以下のポイントなどが話されました(表3)。

また、実際に本システムを利用して、管内における今季の学年別インフルエンザ罹患率についてグラフ化

し、参加者に提示されました(図1)。グラフ化することで、管内では、小学校1年生を基準とした前後2学年においてインフルエンザの累積罹患率が高いという事が読み取れました。その上で、これらの学年への対策が重要であると述べられました。

研修会終了後、参加者からは「システムの入力は大変だが、実際の活用方法を知る事で入力する事の必要性が分かった」、「本システムを積極的に活用したい」など、前向きな意見が多く聞かれました。

なぜ、「早期探知」は大事なのでしょうか
<ul style="list-style-type: none"> 記録をとり、整理されていると、感染症発生を早期に見つけることができます。 早期探知できると、速やかに専門家と連携をとることができます。 早期に対策を行うと、集団感染や二次感染などの感染拡大による被害が大きくなる前に、抑えることができます。

表3 安井良則先生の講演より

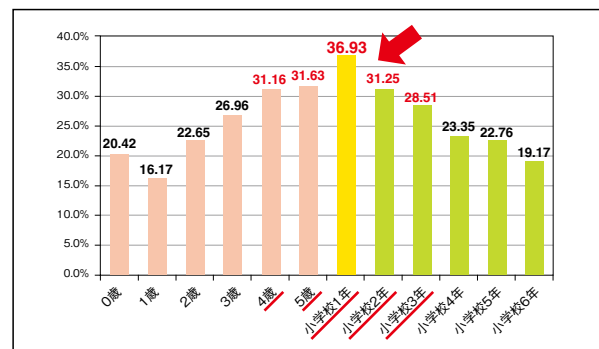


図1 管内における今季の学年別インフルエンザ累積罹患率 (平成24年3月末現在)

5. おわりに

保健所では地域のサーベイランス事業を実施してきましたが、本システムが導入された事で、今まで以上に早期探知が可能となりました。

学校は集団生活の場であり、感染症の拡大が起きやすい環境です。校内や地域で発生した感染症は、集団生活を通じて拡大します。感染症に対して弱者とされる乳幼児や小学校低学年の児童は、感染する事で重症化する事もあります。

感染症は、何が、いつ、どこで流行するか予測する事ができません。入力いただいたデータを関係機関がリアルタイムに共有し、自施設の感染対策に留まらず、近隣地域の発生動向も踏まえた対策を講じる事が大切です。

※研修会の資料およびアンケートの結果等を、奈良県郡山保健所のHPにて公開しております。
http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-1730.htm